

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901175		
法人名	株式会社 コスモス		
事業所名	グループホーム 太陽		
所在地	旭川市東旭川町共栄29番地12		
自己評価作成日	令和6年1月8日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0172901175-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和6年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設正面は側は住宅街。裏側は広大な田園がある。また施設の畑もあることから、入居者には畑作業など取り組んでいただいています。レクの一環として行っている種や苗の準備なども年々入居者が中心となることができるようになってきています。収穫の際は地域の住民や子供たちも参加いただけるよう実施しています。理念にある利用者の人格や自立した生活を意識し通常のレクや運動機能訓練のほかに、昼食などの調理を行っていただくよう配慮しています。利用者自身で考えながら取り組まれることが増えております。コロナも収まりつつあるのでこれからは食材の購入などにも参加していただくよう考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大雪山連邦が眺望できる住宅街に位置しています。事業所の外観は太陽のイメージカラーであるオレンジ色で、冬景色の中でもひときわ存在感があります。広大な敷地内には花壇や畑があり、収穫時には近辺の子供達が芋掘りに訪れています。利用者も調理レクでは様々な野菜等を活用し、栗ご飯やカレーライス、漬物、豚汁などの調理で力を発揮しています。運営推進会議は事業所の現状もあり書面で開催していますが、家族を含め多種多様な推進委員から意見や情報等を聞くことができ、質問等は次回の議事録で説明しています。職員は夕食後に1時間ほど利用者と関わりを持ち、会話の中から思いや要望を聞き取り、出来る範囲で満足が得られるよう努めています。事業所は、今後に向けて地域交流や外出行事の活性化を検討しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、全体会議などで「理念」を作成したがまだまだ理念を中心に介護を行っていく姿勢には検討の余地がある。 全体会議などでは都度話し合うように心がけている。	理念を見直す機会があり、職員の意見を集約した新たな理念の下、実践に努めています。利用者の人格の尊重や自立支援、地域や家族との関係性を謳っており、ユニット内に掲示することで意識付けを図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域包括センターの協力を得ながら地域の他の事業所や地域住民の「認知症を知る会」との交流を2か月に1度行っている。また地域住民の定期的な施設訪問の協力をいただき入居者との話し合いや畑仕事に参加いただいている。	町内会長からは畑耕しの支援があり、収穫時は地域の子供たちが芋掘りに訪れ、また、複数の住民がボランティアで定期的に来訪しています。施設長は地域向けに認知症の啓蒙活動に取り組み、相互の理解に繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会での認知症に関する勉強会を行ったり、キャラバンメイトとしての地域の住民の理解を得るべく講師を務めさせていただいている。また近くにある旭川医大看護学部においても実施させていただいた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため書面での開催となっているが、いろいろな意見は出てくるようになった。推進委員の間では当施設での全体会議や取り組みには理解を得れるようになった。また地域の住民の方の推進員会への参加を呼びかけている。本年度実施予定。	幅広い呼びかけにより、多くの推進委員が名を連ねています。事業所の現状報告に加え、職員会議録や資料、行事写真等を添付した議事録を推進委員や家族に届け、読後に出された意見には、次回の議事録で理解が得られるよう説明しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの協力や旭川市介護保険課指導課や長寿社会課への相談など通して協力をいただいている。災害対策や非常電源等についても丁寧な説明をいただいています。	主に施設長が行政の各担当窓口を訪れ、運営上の疑問点や相談等で情報交換を行い、良好な運営に繋げています。地域包括支援センター主催の地域住民と事業所を含む3グループホームの集いが定例化しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない介護に努めている。 一時的にやむを得ない場合もこれから発生する際は都度身体拘束委員会を開催して話し合いをする体制を作っている。	止むを得ない状況以外は、身体拘束をしないケアを基本としています。適切なケアであるよう常に意識をした支援に努めていますが、その時々で役職者が注意を促したり、会議等で対策を講じています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議や通常の介護の場面で何が虐待に当たるのか、どうすればいいのかを常に話し合うようにしている。全体会議での議題にあげたり、外部講師による研修も行っている。また、障害者施設での虐待などの実情も適時会議で取り上げるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関してはネット学習に終わっているのですが、今後制度の理解を深めるように、外部講師などを予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みなどあった際に、契約書や重要事項の説明を行っている。また入居時には改めて説明、同意をえている。また心配事や疑問点なども聞き説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や訪問時の家族からの要望、意見は速やかに職員に伝達。改善できるものや実施できるものは職員間で共有し運営に反映させるようにしている。	家族には、来訪時や毎月写真を同封した個別の手紙で利用者の様子を報告しています。年6回、運営推進会議録の送付時に内容についてのアンケート用紙を入れています。利用者や家族の要望には、出来る範囲で応じています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案などは都度、上司に直接報告している。実施などに関しては各ユニットのリーダーを中心に他職員と話し合い実行している。	職員は、業務や会議等で運営や利用者についての気づきを述べており、情報を共有した職員は、課題解決に向けた意見や提案を表出しています。人事考課による個人目標の設定でレベルアップを図り、効果をもたらしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度によるそれぞれの職員の自己研鑽や業務の向上の意識を把握し、給与などに反映させるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護資格の取得や研修などへの参加などに関して時間的、経済的な支援がある。資格取得などに関しては処遇などに反映させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新規入居者の情報取得や入居後の状況報告などの際他施設職員との交流の機会を持つようになっている。相談員や職員の相互訪問も行われている。医療機関などとの交流も心がけている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や施設相談員、病院相談員や看護師などからの情報を元に事前に情報を職員間で共有し、ご本人の要望など聞きながら関係づくりを行っている		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族からの要望、懸念などをよく聞き、その状況や介護結果を都度報告を行っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人から要望などを聞き、基本的な介護の方針を立て提示していく。訪問診療も含めて他医受診などにも対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、ご本人と過ごす時間を作っていく。その中でご本人の考え方や要望に接していくようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との縁が希薄にならないように都度現況報告を行いながら、介護の方法についてご家族の意見をいただくようにしている。状況によりご家族の訪問も要望している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため外出などは制限されることが多いが、訪問時は玄関などで対面面談していただいている。またFaceTimeや電話、葉書など利用して関係性が途絶えないように対応した。	コロナ禍により自由な外出は自粛していましたが、ドライブで桜やイチョウ並木を觀賞し、季節の移り変わりを感じる機会となっています。また、利用者の要望で昔の居住地を訪れています。年末年始には家族の支援で、日帰りや外泊が実現しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルでの椅子の配置などに留意した。それぞれが孤立しないようにかかわってきた。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方の情報は得るようにした。別な情報も必要に応じて家族には提供した。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと個別に接触する時間をつくり、その中でご本人の意向などを把握するよう努めている。	夕食後に1時間ほど利用者とはじっくり向き合う時間を作り、思いや要望を聞き取っています。利用者の置かれている状況を踏まえ職員間で検討するなど、適切な判断になるよう努めています。人生の最期に対する意向も折に触れ尋ねています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を語っていただき、よかった時の思いを感じていただくよう職員から対応していたと思われる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況や何ができるかなど普段から観察をしている。料理などにも何ができるかを把握しておくといろいろな役割分担が可能であった。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの情報、職員のの観察の結果などからどのような介護が必要かを考え介護計画へ反映させている。全体会議などでも職員間での話し合いは行っている。介護計画での文面ではもう少し具体的に表現してもいいかもしれないと感じている。	ケアプランは、利用者や家族の生活への意向を中心に毎月のモニタリングで現況を見極めて作成しています。更新時や状態変化時には、適切な支援目標になるよう努めています。今後、ケアプランと介護記録の改善に向けた取組を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は確実に実践されている。個別の対応や介護といった面で決めつける点もあり都度せいはしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の畑を利用したり、車で外出し昔住んでいたところを訪問。また季節の花や風景を楽しむなどが落ち着くようなサービスを行ってきた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の畑や花植えなど地域の人、子供とのかかわりを持ちながら生活できるよう考えてきた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療やかかりつけ医受診など援助を行ってきた。服薬している薬が適切なのかどうかという点なども医療連携の看護師に相談したり、直接医師に薬の必要性を相談したりしてきた。多くは減薬となってきた	入居時に、協力医による月2回の往診と、馴染みの病院や他科受診時は職員が同行支援とする医療連携体制を説明しています。週1回の訪問看護師による健康管理も行われ、健康状態は関係者と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との協働は必要なものとかんがえる。日常の報告にとどまらず、皮膚やむくみ、呼吸、心音などといったことなども直接本人を看いただくよう対応した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご本人の普段の状態や特性を正確に伝えるように心がけている。治療がある程度目安がついた時点で早期の退院などについて要望を出すようにしている。日常的に病院関係者とは情報交換を行っており良好な状態であると思う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化や終末については都度家族とは話し合うようにしており、医療側にもその旨伝えるようにしている。家族側の要望が時に代わることもあるのでそのような際も医療側に伝えるようにしている。看取りの際もチームで可能かどうかの話し合いも行っている	協力医による勧めもあり、昨年から看取り介護加算を申請しています。職員は会議で終末期の対応を学び、利用者や家族の意向を受けとめ、寝たきりにしない、褥瘡を作らないなど最期まで尊厳ある支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置に関しては職員によっては十分と思えない状況もあったので、介護方法の改善など指導している。また応急処置についても全体会議で説明していくとともにDVDによる説明会、AED業者の研修会など実施した		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所に関しては市との話し合いで指示が来ることになっている。避難誘導に関しては昨年大型の車両を購入活用していく。また入浴時や夜間の被災などに関しては全体会議で対応を検討してきた。	年2回、日中・夜間時での火災を想定した避難訓練は、利用者も参加しています。非常時には、地域住民や2か所のグループホームに協力を要請しています。災害時は、行政から福祉避難場所の連絡が入ることになっています。	これから行う地震想定訓練は、公的避難場所である近くの公園に避難する予定です。BCP(事業継続計画)の完成と非常電源設置も計画していますので、それらの実行に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格や尊厳といった点では、ごく一部であるが言葉使いなど問題あることがあり、全体会議などで注意喚起してきた。今後も声掛けなどに関しては職員間で話し合いを進める。どうしても改善できない職員に関しては配置換えなど考える。	身体拘束や虐待をしないケアを基本としていますが、さらに適切なケアの学びを深めるため接遇研修を開催しています。伝達時は固有名詞を出さず、個別の書類も事務所で適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出てくる要望には対応が難しい点もあるがその方の望んでいる方向性を考える必要があると思われる。代替え案の提出なども含めて。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床時間や休憩時間などその方のペースに合わせるようにしている。ただ本当にどのように生活したいかはなかなか把握できていないと思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力も得ながら、季節感のある衣服など用意している。歯磨きや整容などご本人ができてものは低下させないよう都度声掛けなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月入居者の方の食べたいものを調理していただく機会を作っている。自分で作ったものは普段の食事より楽しんで食べられています。料理の準備や後片付けもされるようになりました。	調理専門職員が業者から届いた食材とメニューに沿って、利用者好みの味付けをしています。月2～3回の調理レクで、利用者は畑の野菜や住民から届いた南瓜を使い、漬物や栗ご飯、南瓜団子等を楽しんで作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日観察している。祝辞接種が困難な方には食事介助を実施。また容器の工夫なども行っている。食事摂取が困難な時は医師の指示のもとラコールなどの使用も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて口腔ケア可能な方は自力で、できない方は準備だけとかあるいは全介助にて実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々人の排泄パターンを把握しひとり一人に合ったトイレ誘導を行っている。この際も声掛けが雑であると拒否があったりしているので、その方の尊厳を考えて声掛けを行うようにしてきた。現在日中は全員トイレにて排泄を行っている。	排泄は見守りながらの自立支援や2人介助、夜間のみベッド上の支援ですが、トイレでの排泄を基本とし、職員は尊厳に配慮した声かけや誘導を行っています。衛生用品の必要時は、職員間で協議しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の方で便秘の状況が異なるため、食べ物、水分、薬、運動など工夫を行いながら対応してきている。排便の観察はよく行っており5日6日と長い便秘は現在はない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴実施。ご本人に入浴の確認してから実施しています。おむね入浴日は決めています。ご本人が別な日の要望あつた時は希望日に実施。	入浴は利用者の意向を尊重し、無理強いを避けています。週2回は入浴できるよう声掛けをし、シャワー浴もありますが、利用者の殆どは湯船の中で寛いでいます。入浴時は、特に本音や昔話などが聞かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで過ごされていますが、体調や足のむくみなど考えて昼少し臥床していただいたりしています。就寝時間も厳密には決めないで、個々の時間に対応しています。ときに夜間眠れない方はホールで過ごされる方もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果や副作用などに注意するとともに薬自体の理解を深めるようにしています。服薬による症状の変化に対しては必要時、医師、看護師に報告し指示を仰ぐようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を知ることにより、施設内での役割を見出すように考えています。今までの経験が生活の場で生かされるよう意識しています。料理や花植えなどは過去の経験が出てきています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過去に住んでいた場所に行きたいという要望があり外出をしたりしています。コロナがありますが大きい車を購入したので近郊ドライブに行ったりしています。年末年始は家族と過ごせる時間を設定しました。	少しずつですが、外出の機会を増やしています。利用者は、広大な敷地内を散歩したり、ベランダで景色を眺め、時にはバーベキューを楽しんでいます。ドライブで近郊を巡ったり、利用者の要望で数人が観光地のラベンダー畑を觀賞しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にも少額のお金を本人へ持たせていただくよう要望を出しております。ご自分で自販機のジュースを買われる方もおられます。コロナが収まれば近郊のスーパーへ買い物へも行く予定です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話での話し合いや、タブレットでの電話などを利用してご家族と話をされる機会を作っています。手紙などもあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の老朽化もありますが、過ごしやすい空間をつくために、エアコンの設置、大型の加湿器、トイレ、脱衣所の床の張替え、洗面台の増設(4か所)玄関アコーデオンカーテンの設置を行いました。サンデッキの階段修理、テント購入など日中過ごせるよう改善しております。	リビングにベッドを設置して、利用者がいつでも休息できるようにしています。利用者は季節飾りを作り、その時々季節感を味わっています。環境作りにも着手し、床などの改修工事や電化製品を買い揃えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにおいてはご自分の居やすい場所で生活されています。また気の合う同士が同じテーブルになるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇など置くよう考えていますが、個室で過ごされることが少ないです。部屋によっては寒い部屋があったため暖房の配管の修理を行いました。	クローゼットを備えている居室には、利用者や家族が持参した生活用品や装飾品、写真、カレンダー等が持ち込まれています。自分の部屋として安息できるよう生活環境に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりに関しては不足している部分に関してはあらたに設置しました。トイレに関しては夜間行くことが困難な方にはホータブルトイレを設置。タンスや収納棚は本人が混乱しないよう表示などわかりやすくしています。		